

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立鴻巣高等学校)

目指す学校像	確かな学力と人間力を育成し、地域の期待に応える学校
--------	---------------------------

重点目標	1 進学校として生徒一人ひとりの主体的に学ぶ態度を育成し着実な学力向上をめざす 2 キャリア教育を充実し、より良い進路目標を実現させる 3 保護者と地域のニーズに応える開かれた学校づくり 4 豊かな人間性や社会性を培い、主体的に行動できる意欲・態度を育成する
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<現状> 落ち着いた雰囲気の中で授業は行われているが、授業に対する取組や自主的な学習の状況を考えると、生徒の主体的な学習意欲や教員の学力向上への取組に工夫改善する余地がある。 <課題> 生徒の現状を捉え、早期から生徒一人一人に明確な目的意識を持たせ学習意欲を引き出すなど、個に応じた学習者支援の取組が重要である。カリキュラムマネジメントの手法により、継続的な指導改善を図るため学年・教科で効果的な指導法を共有し、カリキュラムポリシーを踏まえ新カリキュラム実施に向けて、学習指導要領や大学入試制度に対応した学力向上に向けて新カリキュラムの試行・検討を図る。	①わかる授業・伸ばす授業の実現 ②安定した検定試験合格者数の確保 ③主体的な学習時間の増加	①各教員が、自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や成績向上のための具体的な授業改善策を記述して取組む。 ①現在取り組んでいる教育活動をベースに組織的・継続的な教育活動に成熟を図る。各教室のプロジェクト、タブレットなどICTの授業活用を推進する。 ①県事業予算等を活用し、学習意欲を高める学習や学びあいチャレンジする機会を設ける。 ②資格取得への意識を高め、指導方法を工夫改善し共有する。 ③自らの学習履歴を記録する「のす高手帳」および「e-ポートフォリオ(Personary)」の活用を推進し、目標管理や時間管理による学習や生活に対する計画性をもった自己管理能力を向上させる。 ③授業で予習・復習を促し課題を課す。 ③学びの基礎診断等の診断結果をエビデンスとして、各学年・教科で結果を学習者支援に活用する。	①授業にしっかり取り組み、満足できているか。(生徒アンケート) ①学ぶ意欲を引き出し学力を身につけられる授業が実施されているか(生徒アンケート) ①主体性や学習意欲を高める授業等を実施できたか(県事業、協調学習など) ②各検定試験の合格者数が高いレベルを維持できたか。 ③家庭など授業時間外での学習時間が増加したか(生徒アンケート)。 ③各教員が教科指導において課外学習の習慣化を指導(確立)できたか。 ③総合的な探究の時間や各科目の指導を通して自らの資質・能力の向上が図れたか。(参考:育成したい資質能力はカリキュラムポリシーに、評価指標はマップに記載)			
2	<現状> 進路決定率は毎年95%を超え、着実に安定した成果をあげている。しかし、生徒が早期から計画的に取り組む姿勢は十分とは言えず、希望する進路を実現するためには進路に取り組む姿勢や学習に対する計画性が必要である。 <課題> キャリア教育を更に充実させ、生徒が希望する進路実現を計画的に支援することが重要である。大学入試改革に伴い生徒の学習履歴の蓄積するe-ポートフォリオの導入、大学入試改革等への対策など新たな情報の収集・分析・活用・伝達、本年度からスタートするキャリア・パスポートの指導に対しても準備を進める必要がある。	①キャリア教育の充実(自立的キャリア形成支援) ②進学希望の実現 ③就職希望の実現	①進路の手引きや進路行事等を活用し、早期からの進路意識の向上させる指導を充実し、生徒の主体的な進路意識の向上を図る。 ①地域機関(民間企業や大学等)と連携し外部人材を活用した指導を充実する。 ②大学入試情報を効果的に提供する。 ②大学入試対策(推薦・一般)の指導を工夫改善する。教員研修を計画的に実施し、事前指導、数値や情報の開示、指導の改善充実を生かす。 ②保護者対象の公開授業や講座、進学先見学会など進路に対する学習の機会を充実を図る。 ③適時適切な求人情報の発信、成果や結果を進路情報として効果的に発信する。 ③就職試験対策(筆記・面接等)を就職支援アドバイザー等と連携し工夫改善する。	①自らの希望進路に対して意欲を持ち、計画的に考えられるようになったか。(生徒アンケート) ①主体性をもった進路への考察や体験の機会を設けることができたか。 ②進路実績を分析し、希望する進学先への指導ができたか。 ②大学の合格者数が増加・進学状況が向上したか。 ②進路指導に対して満足できているか(保護者アンケート) ③効果的な就職支援を実施し、就職の内定率100%を維持できたか。 ③面接指導など進路指導に対して高水準の満足度があるか。(生徒アンケート等)			
3	<現状> 保護者や地域と連携した教育活動を進め、同時に情報発信に努めている。開かれた教育課程の検討を含め、保護者や地域との効果的な連携の在り方について検討を進めている。 <課題> 保護者や地域との連携を密に、地域から評価される開かれた学校づくりを一層推し進める。生徒募集も地域との連携を計画的に進め、地域の中学生とその保護者に分かりやすく本校の魅力を伝えるなど効果的な情報発信が重要である。特に商業科の倍率を確保する。	①PTA・教育後援会活動の充実 ②地域に愛され評価される学校づくり ③効果的な情報発信	①PTA・教育後援会と学校行事等における連携を効果的なものとする。保護者に有効な機会と成果を共有しPTA委員会活動など工夫検討する。 ②鴻巣市・ロータリークラブ・自治会・大型商業施設との連携や部活動等の地域ボランティアを推進する。 ②学校案内・学校通信・学校説明会・中高連携(出前授業等)を創意工夫し、地域と連携し効果的な生徒募集を行う。 ③ホームページの情報を整理し、本校の教育活動を学校情報をウェブページで積極的に発信する。 ③Webページ等を中心に学校情報発信の充実を図る。特に学校行事や部活動情報の情報発信を充実させる。	①PTA・教育後援会と学校が効果的に連携できたか。(保護者アンケート等) ②地域との新たな連携が構築できたか。 ②学校が地域に評価されているか(保護者アンケート等)。 ②志願倍率を維持・増加できたか。 ③昨年度よりウェブページの更新回数とアクセス数が増加したか。 ③学校情報の発信を効果的に行い周知することができたか。(アンケート等)			
4	<現状> あいさつ、服装、態度等きちんと対応できる生徒の割合が高く、地域・保護者等から高く評価されている。 <課題> 生徒一人ひとりが学校行事を活性化させるため自ら積極的に参画する主体的態度・意欲および自律した判断や行動ができる力など人間力の育成が継続的な目標である。	①行事を活性化させ人間力を磨き、自律的な判断力と実行力を身につけさせる。	①生徒自らが、高い意欲をもって主体的に学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行等)・特別活動・部活に参画することで、社会的な能力・態度を育成しながら、学校に対する愛情と人間力を磨き高めさせる。 ①既存の行事等において生徒主導で活躍できる場の創設や、国や県の挑戦(チャレンジ)できる事業と連携・活用し、生徒が成長できる主体的に取り組める企画として奨励する。	①生徒は学校行事・特別活動・部活に積極的に関わられたか。(生徒アンケート等) ①高校生活が、自らの人間性の成長の実感となっているか。(生徒アンケート) ①生徒主導で活動したり、新たな取組に挑戦する(挑戦したい)生徒が増加したか。新たなステップに挑戦している生徒の割合は増えているか。(生徒・保護者アンケート)			

学校関係者評価		
実施日 令和元年2月 日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		